

# せっかち 園長の ひといごと

2015、12、18

認定こども園あかみ幼稚園・メイプルキッズ 統括園長 中山昌樹

今日は、終業式。ついこの間に新年度が始まったと思っていたのに・・・年をとればとるほど、時間の流れが速いですね。

(小学生のころは、一年間がものすごく長く感じられました。)

さて、もう年が変わるといこの時期、私はいつも未来のことを考えます。皆さんには、未来の何が見えますか？  
流動的で不透明で、先を見るのが難しい時代ではありますが。



オックスフォード大学の調べでは、「20年以内に、現在の47%の仕事を機械がするだろう」ということだそうです。これからの子どもたちが大人になるころには、今ある仕事のかなりの割合をロボットや人工知能が行うようになり、その仕事をしてきた多くの人は失業者か、転職をしなければならなくなる、ということです。たしかに、数字の計算や何かを記録したり記憶する能力は、コンピューターにかないません。 汐見稔幸先生（あかみ幼稚園が舞台となった『認定こども園がわかる本』を監修した先生）が、いつもよく言うのは、「これからの子どもたちに必要な能力は、コンピューターができないような能力である」ということ。

このような背景があり、何度も言うので“耳にタコ”かもしれませんが、文部科学省は2020年に「センター試験」を廃止し、新しい大学入試制度を作ることにしたわけです。その試験で調べられるのは、さきほどの汐見先生が言うような、コンピューターができないような力や態度です。具体的な例をあげると、それは、答えが一つではない問題解決をする力。それは・・・多様な価値観をお互いに認め合いながら、コミュニケーションを忍耐よく繰り返し、相手に自分の考えや気持ちを伝え、相手の思いや気持ちも聴いて、交渉し、合意の形成を目指すということ。

OECD（経済協力開発機構）が2000年から3年に一度、世界の15歳の子どもを対象に行っているPISA（国際学力到達度テスト）では、こんな問題が出たことがあります・・・街で見かける、シャッターや壁にスプレーで絵のような文字のようなものを書く行為をアート（芸術）と考えるか、いたずら（犯罪）と考えるか？・・・答えは、どちらも正解。ただし、なぜ芸術なのか、なぜ犯罪なのかという理由（自分の考え）をしっかりと添えることが求められます。要するに、**お互いの考えをぶつけ合い、答えが一つではない問題解決をする力**が試される、ということなのです。

あわただしい年の瀬ですが、年末年始は一つの大きな節目です。ちょっと先の、我が子の将来について考えてみたらどうでしょうか？

続く↓

## そのような力の土台となるのは・・・

これもどこかで書いた記憶がありますが、やはり OECD（経済協力開発機構）が提言しているのは、2020年の新しい大学入試で試される能力の基礎は、乳幼児期に育まれる『社会情動的スキル』である、ということ。

情動というのは、感情や気持ちのようなもの。そしてそれらを人間関係（あるいは社会）の中で使って対話していくのに必要なのが『社会情動的スキル』、と私は理解しています。具体的に言うと、何かをやってみたい！という意欲や、それを達成する途中での試行錯誤、そしてそれに耐える我慢する力。さらに、そのことを友だちと取り組む際の、思いや意見の食い違いを調整する（合意の形成する）力も大切です。そしてこれらのプロセスが豊かであればあるほど得ることができる、やり遂げたことによる満足感や自信、自己肯定感、あるいは自尊感情。

先日、私が代表を務める小さい団体で、大豆生田啓友先生（玉川大学）を講師にした勉強会がありました。そこで大豆生田先生が言ったことは・・・



保育の質の差が  
大きな育ちの差  
になるんです！

- ①『社会情動的スキル』は今、乳幼児期の保育・教育をめぐる国際的なトレンド。
- ②この『社会情動的スキル』が最も育つのは、小学校就学前の子ども（0～5歳の）の時期。
- ③『社会情動的スキル』は、一度、乳幼児期に育つと、その子どもの一生にわたり持続する。
- ④小学校以降の知的な学び（お勉強）の効果を高めるにあたって、『社会情動的スキル』が育っていることが有利である。
- ⑤そして、『社会情動的スキル』を育むことができるのは、質の高い成育環境と豊かな遊びが保障される暮らしである。

新しい制度（「子ども・子育て支援新制度」）が始まった、記念すべき2015年の最後の「ひとりごと」なので、くどいようですが、ここでもう一度書かせていただきます。

**今、日本では教育をめぐって、大きな動き（変化）が始まっています。**

**2020年の大学入試制度改革 ⇔ 2018年小学校「学習指導要領」改訂予定（アクティブ・ラーニングが、キーワード）。**

\*アクティブ・ラーニングとは・・・一方的に先生の話聞くのではなく、児童・生徒が自分で問題を発見し、答えが一つではない問題解決を自ら行う力。

**そして、これら大きな動き（変化）の土台となるのが、『社会情動的スキル』の育ちであり、豊かな『遊び保育』なのです！**

## 次に、お薬についての最新情報・・・

前回の「ひとりごと」で、幼稚園連合会として医師会に  
 お願いの文書を出したらどうか、という話題提供をしま  
 した。ここでは、その続報です。

先日の7日（月）に開かれた園長会で、園での投薬について  
 の話し合いがなされました。

そこでは、各園の状況に多少のバラつきがみられましたが、  
 それぞれで保育者の負担が増えている状況を確認しました。  
 もっとも各園の園長たちの心を動かしたのは、某こども園が  
 今年4月からの「投薬依頼書」の束をそのまま会議に持ち  
 込んだことです。その数（束の厚さは、1クラスで、約15  
 センチ）の多さに驚いた園長たちの中には、現場がそこまで  
 大変だと思っていなかったような雰囲気もありましたが、  
 どの園長も保育者がもっと子どもや保育に関わるように  
 という今回の主旨に、皆、賛同するに至ったということです。

そして私が作成した案（右の文書）の検討に入り、全会一致で、  
 会長の小林先生（呑龍幼稚園）が医師会の林先生のところに、  
 この文書を持ってお願いの挨拶に行くということになったわけ  
 です。

これが実行されれば、保護者の皆さんも、**安心して主治医の先生と相談できる**ようになるのではないかと思います。

平成 27 年 12 月 日

佐野市医師会

会長 林 一宣 様

### 幼稚園・認定こども園における投薬について（お願い）（案）

佐野市幼稚園連合会

会 長 小林研介

（前略）

そこで当連合会として、子どもの健康と保育・教育の両立の観点から、以下の事がらをお願い  
 申し上げます。

1. 保護者から相談があった場合、必要に応じて、処方回数等を考慮していただき、  
 子どもが園に滞在する間に投薬の必要がなくなるなどの対応をお願いいたします。
2. そのお子さんの症状に応じて、どうしても園に滞在する間での投薬が必要な場合には、  
 お手数ですが分かりやすく、保護者の方にその理由等をお伝えください。その場合に  
 は、園で対応いたします。

以上はあくまでも、お願いとご相談です。医療の立場からのお考えや必要な処置等について、  
 今まで以上にご指導賜れたら幸いです。

## 最後の話題は・・・

先日、我が家で飼っていた犬が亡くなりました。今、20歳の三女が、5歳の時に我が家に来た犬です。名前をピース（平和）といいます。ですが、ピースは、雨の日に車にはねられて怪我をしていたところを長男が拾ってきた時、すでに成犬に近い様子だったので、正確な年齢はわかりません。いずれにしても、ずいぶん長生きしたものです。ずっと外で飼っていたのですが、最後の数日は、下の写真のように家の中のコタツで寝かせていました。

我が家には、亡くなったピースの他に、キャンという犬（ともにメス）と3羽のウサギ（名前は省略）がいます。今は子どもが3人とも家を出ているので、動物たちの世話は私たち夫婦でやっていますが、以前はほぼ完ぺきに子どもたちだけでやっていました。家で動物を飼うようになったのは、まず、長男が年長（あかみ幼稚園）の時に増えた子ウサギをもらってきて飼い始めたこと、そして園の北門に段ボールで捨てられていた子犬3匹のうち、鼻が赤いキャンがどこにももらわれていかなかったので我が家に来た、というのがきっかけです。

犬たちにしたら、捨てられたり車にはねられたりしたところが、我が家にもらわれてきて命拾い、というところでしょうか。ウサギは・・・？ どうなのでしょう？ いずれにしても、限られた居住スペースで、私たち家族に、その一生でもって付き合ってくれる（た）動物たち・・・本当に感謝です。三女などは、中・高生の多感な時期、「アニマル・セラピー」といって、犬の所によく浸っていました。

私としては・・・子どもたちとウサギ小屋を2回ほど、手作りしたのが、とてもいい思い出です。この2回目の小屋ももう使われなくなり、買ってきたケージの脇に置き去りにされていますが、この間、長女が関西から帰ってきた時、「使わないとこんな風になっちゃうんだ」と、小さい頃に父親と手作りしたのを懐かしそうに語っていました。



無藤隆（むとうたかし）先生が、『科学する心』をテーマに、「作ること」「育てること」「調べること」の大切さを説いています。たしかに、動物と生活を共にすることには、子どもの育ちにとっての大きな価値があります。それプラス、私は、家族のあるいは親子の“共同作業”を通して、大切な思い出という宝物が得られるな、と思いました。・・・では皆さん、よいお年を！